# 家族ぐるみ立上る
## 日産鏡支部の闘い長期化

日産鏡労組（熊本県八代郡鏡町）では、いま血みどろな闘いを炎天のもとにつづけている。会社側の一方的な生産停止と全員解雇に反対して組合員とその家族の怒りが爆発したのだ。封建的な熊本県での闘いだけに、大きな注目をあつめているが、工場長との大衆交渉で会社幹部を上京させ、事態処理にあたらせるなど、「家族をふくめた団交をくりひろげ、長期闘争に立ち上つている。

鏡支部では本部の指令によつて七月二十八日午後二時から二時間の時限ストに突入、この日の抗議集会では「長い闘いがいまここにはじまつた。いままで出しあつた力の二百倍、三百倍を出して闘おう」と決意をかためた。この日はまた朝八時から事務所前広場で工場長らと大衆交渉をおこない、主婦、子供づれの家族をまじえた組合員のはげしい抗議と追及に会社幹部もついに折れ、組合とともに生産停止反対に協力することを表明し、幹部ら三名をすぐさま上京させることを確約させている。また、大衆交渉中に二名の私服警官が工場内に入つてきたが全員の抗議で退去させるなど、組合員はもちろん、主婦たちも涙を怒りにかえて立上つている。

### 三池に負けるな

闘争支援のため、三十日現地へおもむいた広瀬教宣部員は、闘う鏡労組や主婦の姿をつぎのように知らせた。

× × ×

### 連日歌の練習
昼休に三作行動隊

〃われらがふるさとを、ふみにじるものはだれぞ……〃さる五日の昼休み、製作所講堂からは元気のよい歌声がながれてきた。これは、同支部行動隊の歌唱指導である。新編成で発足した行動隊では各方面にわたつて活ぱつな行動と取組んでいるが、まず労働歌をおぼえることも大切だと、五日を期して連日、昼休みに練習をおこなつている。また、行動隊を班別にわけ、統制をとつており、第二班（第一製罐）では二日から三日にかけキャンプを実施、団体訓練と共同生活の面で効果をあげている

# 闘の五本松

酒の場でかならずといつてよいほどうたわれ、その庶民的な風格を愛されているこの「闘の五本松」は、これまたその素朴さが人人を裸にしてしまうおどりで有名な「安来節」とともに、山陰地方、島根県を代表する民謡です。

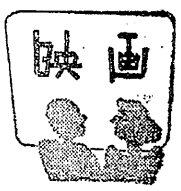
縁むすびで知られている出雲の神様の傍らにあり、島根半島のとつぱなに位置して、日本海の荒ぎをたたえている港、これが闘の五本松の美保闘です。美保闘は、今でこそ小さな漁港にすぎませんが、昔は中国の船の出入りも多く、たいへんにぎわつたところだそうです。そのころ、出入りの船は港の入口にある丘のうえにそびえたつた五本の松を目標に口をあやつつていました。ところがある年、この地方に領主松平候の巡視があり目ざわりになるという理由で、松の一本を伐り倒してしまいました港の繁栄を象徴する平和の松を切られた住民たちは、この処置を大いに憤りましたが、そこはやはり出雲先生の氏子たちです。手荒なことはさけ、さつそくあとの松どもを守るために「あとは伐られぬ夫婦松」という歌をつくり、みんなでうたい、歌によるデモンストレーションをやつたのです。効果てきめん、松平候大いに心を動かし「ホイノマツホイホイ」と答えながら（これは私の創作らしいです）伐ることをやめさせた、ということですからこの歌、たいしたもんだね。

ヘアアー
闘の五本松　アドツコイショ
一本伐りや四本
あとは伐られぬ夫婦松
ショコホイ
ショコイチリキヤノ
ホイノマツホイホイ
ヘアアー
闘と魂に
一本植ゑて
一夜通いがしてみたい
ヘアアー
逢うてうれしや
顔美保（かおみほ）の闘
早くなりたい夫婦松

ともあれ「うたごえは平和の力」をいく百年も前に実証した話として、これからもこの「闘の五本松」を大いにうたいたいと思うものです。

（あらき）

# 武器よさらば
## ヘミングウエイの名作小説の映画化




第一次大戦の物語。リナルディ少佐（ビットリオ・デ・シーカ）は親切な人で、ヘンリー中尉（ロック・ハドソン）を自分の息子のように可愛いがつた。少佐は最近この村に新設されたイギリス野戦病院に勤務する看護婦キャサリン・バークレー（ジエニファ・ジョーンズ）が大へんな美人で気に入つたといつて、ヘンリーが帰任した翌日さつそく彼を病院へ連れて行き、キャサリンに紹介した。キャサリンはイギリス出身で、八年前に婚約した男があつたが、その男はソンムの激戦で戦死したのであつた。

その後ヘンリーとキャサリンは毎日のように会つたが、次第に二人はたがいに愛し合うようになつた。雨を嫌う彼女が「私は雨の降る日に死ぬような気がする」とふといつて涙ぐんだのも、そうした楽しいあいびきのある日であつた。

オーストリア軍が、やがて攻撃を開始する気配が濃くなつた。そこでイタリア軍は敵の機先を制するため、ある朝ついに行動を開始した。ヘンリーの部隊もそれと行動をともにすることとなり、彼はキャサリンとしばしの別れを惜しむ。

イタリア軍は雪に埋れたジグザグのけわしい山道を登り、とある尾根に達し、敵と対峙する。やがて、イタリア軍が砲門をひらいたが、まもなくヘンリーは敵の砲弾を浴びて脚に重傷を負い、野戦病院に収容される。そして数日後、彼はリナルド少佐の世話で、ミラノにあるアメリカ野戦病院へ行きたがつたが、それはかなわぬ望みであつた。

ミラノの病院へ着いたヘンリーは、そこで婦長バン・キャンペン（マーシンデイーズ・マクケンブリッジ）や看護婦ファーガソンに迎えられる。ところが、ある日キャサリンが、この病院へ転勤して来てヘンリーを驚かせる。これも親切なリナルデイ少佐の取り計いによることであつた。ヘンリーはまもなく少佐の友人というバレンチニ軍医大佐の執刀の下に脚の手術を受ける。そのころ彼は初めてキャサリンに求婚したが、結婚すると看護婦をやめなければならないので彼女はうんと云わない。彼と別れることを恐れるからであつた。

（十三日よりセントラルで）

# 干害で労農提携
## 夜中の放水に喜ぶ農民

日照りつづきで干害がさけばれていたが、八月一日から降りだした雨で農家はホツと一息ついた恰好である。

だが、この日照りつづきのなかに農民と労働者が手をとりあつて問題に取り組んだ事例があり、雨が降つたとはいえ、こんごの労農提携に大きな力となるであろう。

荒尾市宮内出目地先の十九町歩の水田も、ご多聞にもれず連日の日照りつづきで、七月二十一日にはさいごの水をつかいはたし、あとは他に水源もなく農家では空をながめてボウ然としていた。

もちろん、そのなかにあつてもいろいろと対策はねられていたが、例えば、社水の問題にしても小さな部落のものが行つても会社は相手にしないだろうとか、また料金のいる水では、水をもらつても支払う金がないといつたふうで、まつたくお手あげの状態だつた。

この農家の困りはてたことを、たまたま干害調査をしていた三鉱労組政治局がキヤツチし、早速農民と相談した結果、水田の丘の上にある四山支部の宮内社宅の人たちと話合つたらどうだろう、ということになり、すぐさま川後田分会長と打あわせをした。

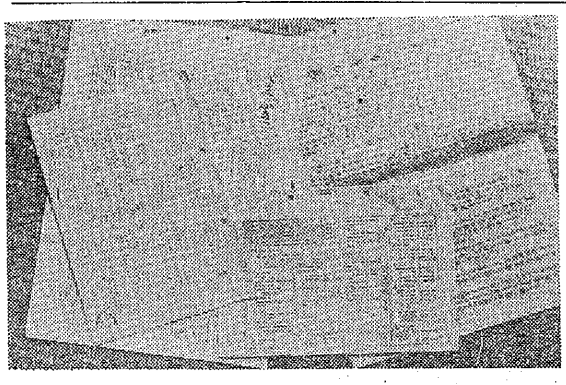
分会長としても「このさい労農提携の一環としてやりましよう」ということになり、主婦会の人人に呼びかけるとともに、四山支部と連絡をとり、支部を通じて屋市議（政治局員）をまじえ、会社と交渉することになつた。

交渉の結果は、夜の十二時から二時までの二時間放水することになつた。

干天にあえぐ農民は、この報をきくや非常に感激して地域分会、主婦会に心から感謝したのである。

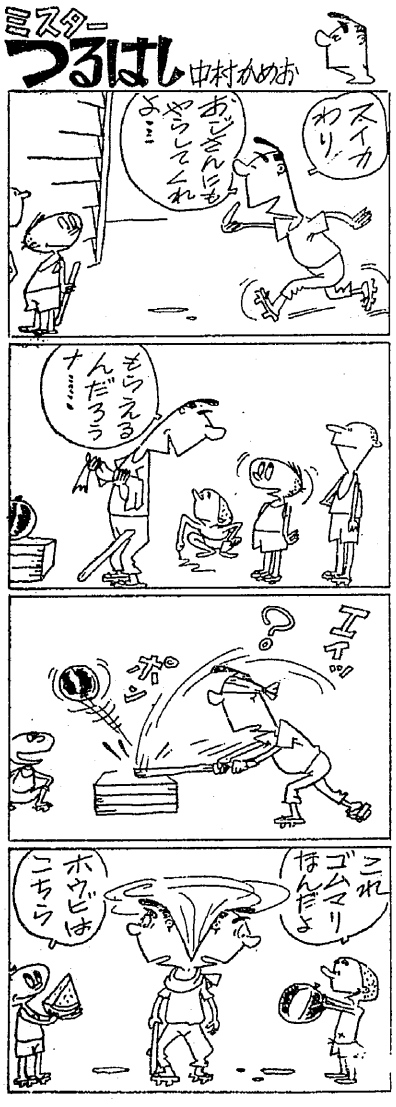
そのご、八月一日より待望の雨が降つて小康をたもつているが、このような実際的な労農提携はつよい力となつて、こんご実をむすぶであろうとおもわれている。

（政治局発）



本家の本性がかくされていることを、われわれはしらなければならない。

鏡労組の闘争は、労働者階級としての闘いであり、われわれはこれにたいする支援と協力をそそぐことが、労働者階級の前進への一歩であることを理解しよう。




# 発刊あいつぐ
## 四山の地域機関紙

四山支部ではさいきんあいついで地域機関紙が発刊されており、地域の情勢、文化活動がかつぱつになつてきた。

いままで発行されていたのは、わずか「しきしま」＝豊島分会、のみであつたが、ことしにはいるや「やぐら」＝宮内分会、「やまぶき」＝山吹分会と発刊があいついでおり、このほか、まだ機関紙とまではいつていないが福社一分会、四分会大島三分会などでは分会便りの形式で発行しており、これもしだいに体裁をととのえて、地域機関紙にすすむ方向をたどつている。

いずれも地域、家族のなかにむすびついて行く機関紙が目途とされているが、地域活動の活ぱつ化にともなつてこの機関紙発行はしだいに多くなつて行くものと思われている。

# 提灯行列など
## 各地域の盆行事

各地域ともお盆がちかづくにつれて、連日の暑さにも負けず、盆踊りなどの練習に余念がないが、ことしの盆行事には趣向のかわつた行事もくまれているが、以下三川支部各地域の行事予定

【外来三小校区】ここでは盆踊りのかわりに提灯行列を計画。この提灯行列も「平和を守る会、勤務評定反対」と銘うつた行事であるみんなが提灯を持参して、三小校庭に集合したのち、地域を一周するというコースで、これを十三、十四日の両日におこなう。

【駛馬南】夏休み期間中でもあり児童たちを対象として、児童舞踊を公民館でひらく。

【小川開】まず盆行事は体育からだとプール水泳大会を企画している。

### お詫び

前号三面記事中「市民俳句大会」で、十五日開催とあるは、十日の誤りでした。関係者に多大の迷惑をおかけしましたことで、ふかくおわびいたします。

# 主婦の学習を
## 港務・月二回ぐらい

学習活動は行動方針にもうたわれており、各職場、地域でさかんにおこなわれているが、港務支部主婦会では、去る七日午後四時から執行部と組合教宣部が九大河口先生をかこんで、主婦会のこんごの学習活動について話合つた。

現在、主婦会にたいしていろいろ批判があるが、その主なものはガラばかり大きくて中味がないということが第一にあげられる。それで中味を充実させるために、学習運動をこんごは活ぱつにおこなうことがかたられた。また、主婦の解放せられる第一歩は、家庭から一歩おもい切つてとびだすことだなど主婦の問題など話合つたが、ともかく、こんごは月に二回程度主婦会自体として学習をやつて行くことになつた。まず、最初は幹部からはじめて、除々に深みとはばをもたせ、一般を対象に運動をひろめることになつた。